

足羽山で発見された新種、アスワホラトゲトビムシについて

みだしのことについて、下記のとおりお知らせします。

記

1. 新種の確定内容

- 福井市自然史博物館では、平成 29 年 11 月から七ツ尾口坑道で地下性動物の調査を行っています。この度、同坑道で採集されたトビムシの一種について、京都大学理学研究科の中野隆文准教授の研究室と鳥取県立博物館において、形態及び DNA に基づいた解析を行った結果、新種であることが確認されました。
- また、ニュージーランドの動物分類学の学術誌 *Zootaxa* に論文を投稿したところ、令和 8 年 2 月 11 日に同誌に論文が掲載され、正式に新種の発表となりました。

2. 新種のトビムシについて

名 称	アスワホラトゲトビムシ (<i>Plutomurus asuwaensis</i>)
分 類	節足動物門昆虫亜門内顎綱トビムシ目トゲトビムシ科ホラトゲトビムシ属
分 布	福井市足羽山（今のところ、足羽山固有種）
発見者	梅村 信哉（福井市自然史博物館 学芸員）
特 徴	体色は白っぽく、背面や脚は灰色がかかる。目は退化。
体 長	3.2~3.5mm
生 態	七ツ尾口坑道では 1 年中見られる。 坑道内の朽ちた木の下などで見られ、個体数も多い。

- 本種が属するホラトゲトビムシ属は北半球を中心に分布し、世界に 36 種が見つかった。土壌中や、地下空間（洞窟など）に生息。日本には 10 種が見つかった。
- 本種は世界では 37 種目、日本で 11 種目のホラトゲトビムシ属の種となる。
- 足羽山では令和 4 年に 4 種目の固有種となるアスワタテウネホラヤスデ、令和 5 年にはアスワメクラヨコエビが新種登録された。本種は 6 種目の足羽山固有種。

3. 今後の取組予定

- ・ 当館としては、野外観察や飼育により本種の生態解明を目指したい。
- ・ 県内のほかの洞窟での調査。県内（大野市、敦賀市、小浜市）で見ついている既知種以外に近縁種がいるか、本種が本当に足羽山固有種なのかを確認。
- ・ 当館の主催する少人数・通年型の昆虫講座「足羽山むしむしスクール」では、毎年、七ツ尾口坑道の節足動物の標本、生体をじっくり観察する機会を提供している。本講座でも、本種の観察を通して、子どもたちが郷土の自然や、昆虫の研究に関心を深めてもらうきっかけとしたい。
- ・ 本種の展示などを通して、広く市民に郷土の自然について関心を持っていただくきっかけとしたい。

以上



写真：アスワホラトゲトビムシ（左：側面、右：背面）※写真データの提供可能です。